

して先輩の皆様方が築いてこられた長所を引き継ぎながら、あるいは短所があるとすれば補いながら「新生西条市」の発展に向けて努力をして参りたいと思っております。

次の時代の人達に、そして更にその次の時代の人達に、本当に合併をしてよかったと思っていただけけるような西条市の実現に向けて、私自身も努力することを、この場においてお誓いさせていただきます。

またその上で、愛媛県のでければ第二の県都になれるように、あるいは道州制においても中心城市となるように、決意を新たにしながら所存でございます。

渡部丹原町長

『道前の野に新しい息吹を』

本日の合併協定調印に至ったのは、県ご当局のご指導、あるいは地域住民の方々のご協力によって成ったことでありまして、本当に嬉しく思っております。

私は、この2市2町の合併というものに対しては、樂觀をしておりました。丹原町からは常に2市2町の全体が見渡せ、地域の一体感を感じることが出来ます。

また、丹原町歌の「ここ道前の野に展く、豊かな大地」という歌詞や私の地元徳田小学校の校歌には「石鎚の山、瀬戸の海、道前の

野を友として」という歌詞があるように、石鎚の山、瓶ヶ森はこの2市2町に無くてはならないものでありまして、生まれたときから道前平野から見えてきた皆さん方には共通の思いがあると思っております。

財政の厳しい折、あるいは構造改革というものは当然でありますけれども、そういう問題がなくても、いずれは道前平野が一つの新しい市となって再生していかねればならない時期が来た訳でございます。

どうか、皆さんと共にご指導をいただきながら、新しい市の発展に向けて頑張ってくださいたいと、このように思っておりますので、よろしく願います。

塩出小松町長

『新しい歴史の幕開けに向けて』

本日ここに合併調印を無事終えることができたことは、ご列席の合併協議会委員、顧問の皆様方を始め、愛媛県ご当局、2市2町関係者の皆様方のご尽力のおかげであり、心から敬意と感謝を申し上げます。

小松町は藩祖一柳直頼公が寛永十五年、一六三八年に新屋敷村の小松原を開き、陣屋建設を始め、地名を「小松」に改め、小松藩と称してから360有余年続いた歴史と伝統のある町であります。私

情を申し上げますと、出来ることならば、小さくとも温かみのある小松町単独で後世に継承していきたいとの思いが、今でも重く心にあります。

しかしながら、時代の流れ、国の状況を考えます時に、国民の一人として耐えがたきを耐えて、市町村合併の潮流に大義を見出さなければならぬと思うのであります。

思い起こせば、小松町は、昭和の大合併により昭和30年4月25日に、旧小松町、石根村、石鎚村の三ヶ町村が対等合併して、現在の小松町が誕生し、私の父研太郎が初代町長を仰せつかりました。

そして今、息子の私が平成の大合併により父から始まった49年間の小松町の歴史に幕を引くこととなり、時代の要請とそこに居合わせた父と私の政治家としての運命めいたものを感じ、大変感慨深いものがございます。

小松町は、これまで「住みたい・行ってみたい・文化の里・小松」をシンボルテーマに掲げてまちづくりを進めてまいりましたが、その基本理念は新「西条市」の将来像であります「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」へと引き継がれるものであります。

私としましても、合併までの残された期間、小松町民のため、そして当地域の新しい歴史の幕開けに向けて最大限の努力を致してまいります。



加戸愛媛県知事

『理想的な基礎単位自治体の誕生』

3年有余の期間に、4人の市長、町長の皆様方が英明かつすぐれたリーダーシップを発揮され、またこと並びに4つの市・町議会議員の皆様方の強いご理解とご支援、合併協議会委員の皆様のご協力、そして何よりも4市町の住民の皆様方のあたたかいご理解が今日の協定調印に結びついたことを心から敬意と感謝を申し上げます。

私自身が3年半前に合併の旗を力強く振らせていただきました背景としては、現在国が進めております地方分権の流れの中で、各自自治体が置かれております、取り巻く環境は少子高齢化、高度情報化、国際化、そして環境の重視といったそれぞれの単位自治体が発揮すべき機能が高度化し、住民のニーズも多様化している中において生き残り作戦であったと思いま

す。行政はスリム化をし、かつ施策の重点化を図り、真に住民が求めるものを、みんなが力を合わせてよりよき地域を未来を開いていかなければならない事態であると思っております。

特にこの地域、素晴らしい環境条件を備えていると思えます。霊峰石鎚を仰ぎ、加茂川や中山川といった水系の中で道前平野という恵まれた農業園芸の生産基盤があり、また瀬戸内海に面した臨海工業団地、西条東予のそれを中心とした2次産業のこの四国の中心的な存在であり、歴史と伝統と自然、そして、今までに育んできたこの地域の共通の連帯感があり、ある意味では愛媛県の中では理想的な一つの基礎単位自治体たいう存在であると思っております。

要は新しくできるこの地域を、新しく構成する住民の皆様方が連帯感を持って、どのように未来を切り開くかということであります。

さまざまな苦渋があり得ると思えます。そういうことを乗り越えてこそ、今大切なこの地域の中で、すばらしい利点を活かし、無駄を省き、新しい4つの市や町が合併した結果が、明治の大合併や昭和の大合併と違った本場に足腰の強い生き方ができる理想のまちづくりが進めていただけるものと、私は確信いたしております。